



ー人口減少社会を生きていくためにー

令和6年度の本chool教育目標は、「ICTを活用し、AIにはできない当事者性を発揮できる未来を担う人づくり」です。あらゆる教育活動を通じて、「自分とは一体何者か」「自分がやりたいことは何か」と自分に目を向け、「自分探し」をしながら、独自の当事者性を発揮できるようにICTを活用し、学んでほしい、との思いをこの目標に込めています。

先日(4/26)の放送朝会では、この目標について、以下のように補足説明をしました。

この目標は、今からの社会情勢を考え、国や兵庫県の方針に基づいて、これからの学びについて、立てた目標です。

皆さんが生きていくこれからの社会は人口が急激に減り、人手不足を補うためにICTを活用しなければ社会がまわっていかないとされています。そして、今までのように他者の成功事例をまねているだけでは、会社経営が行きづまり、下手すると倒産してしまう時代がきています。

それでは、日本はどれぐらいの数で、人口推移をしてきたのでしょうか？

明治維新から130年ぐらいまでの間は、1年間で70万人ぐらいずつ増加してきましたが、現在は約80万人ずつ減少しています。2010年の12,806万人

をピークに、2050年代(皆さんが40才代)には1億人を切ってしまうという予想が立てられています(国土交通省作成グラフ参照)。

これほど急激に人口が増えて、これほど急激に人口が減った国はないそうです。つまりこの人口減少社会が抱える課題をいかに乗り越えるか、それを教えてくれる前例はどの国にもありません。日本に住む私たちが自分たちの頭で考えて、乗り越えなければならない問題だということです。

その課題のなかで、今、解決策が求められているのは、長らく日本を支えてきた人口増加を前提とした経済システムから、人が減っても成り立つ経済システムに変えていく必要がある、という点です。

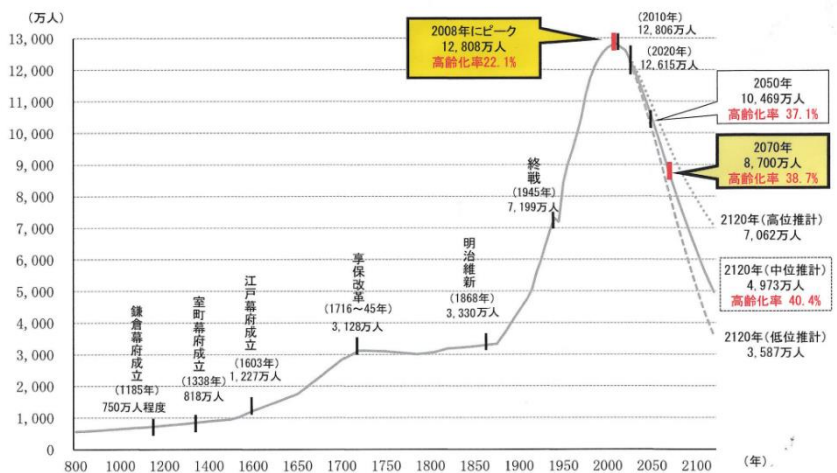
人が増え続けている時代は、ものを作っても、作っても不足しています。サービスも足りていません。どんどんものやサービスが売れる時代です。そこで成功するためには、「誰かが成功している方法を見習って、真似しながら真面目に働けば何とかやっていける」という経営方針でじゅうぶんな利益を得られたようです。

今、人口が減少し始めて、社会の在り方も教育の在り方も真剣に考えなければなりません。

ものを作っても安くしないと売れません。価格競争が行き過ぎると、やがて赤字になって倒産する会社が出はじめます。何か商品やサービスに付加価値をつけて売らないとやっていけない時代が来ています。これからは各自の当事者性を発揮して、自分にしかできないオンリーワンを目指していく必要性を強く感じています。

皆さんは、しっかりと当事者意識を持って、「自分探し」をしてください。課題意識を持って、山陽中学校で学んでください。

あなた方の当事者性が様々な場面で発揮されることを期待しています。



(出典)国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)。
(注)ただし、1920年からは、総務省「国勢調査」「人口推計年報」「平成17年及び22年国勢調査結果による補間修正人口」、
国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」により追加。値は日本の総人口(外国人含む)。